

南病棟8階 概要

病床数:42床

(眼科:36床,糖尿病内分泌栄養内科:6床)

看護要員:師長1名

看護補助者3名

副師長3名

夜間看護補助者1名

看護師25名

看護提供方式:チームナーシング+PNS(パートナーシップナーシング)

眼科看護・糖尿病内分泌栄養科看護について紹介します

※患者さんに了承を得て撮影しています

眼科看護活動目標

眼科看護師としての専門性を発揮し、
看護プロセスを記録に残すことで、
入院・外来・地域へと継続した看護を行います。



薬剤管理(内服・点眼など) 自立に向けた……看護介入
ロービジョンケアを念頭に置いた……ADL介助
他職種と連携した……退院支援

(注)ロービジョンケア:視覚に障害があるために生活に何らかの支障をきたしている人に対するすべての支援

眼科看護の特徴

- 外界からの情報の80%を視覚から得ている
⇒ 触覚などを使った**援助方法の工夫**
- 1週間に約50人の入院患者
⇒ 50通りの**看護を実践**
- 眼科疾患以外にも様々な基礎疾患をもった患者が入院されています
⇒ 安心した入院生活が送れるように看護の基本の一つである**ADL介助**

病棟風景

カラーユニバーサルデザイン を取り入れています

- ・部屋番号やトイレマークは廊下に大きく表示しています
- ・ポスターは黒地に白抜きで色覚異常や白内障、緑内障の患者さんでも見やすいよう工夫しています
- ・夜間でも廊下の照明をつけ、見やすい環境にしています



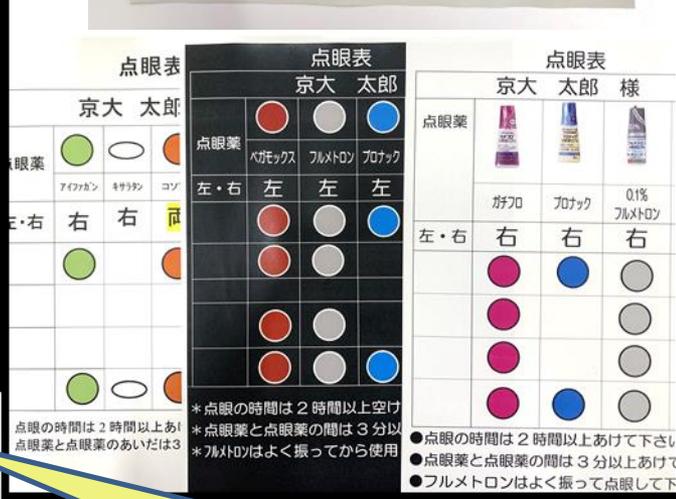
眼科の看護

①点眼の工夫

- 点眼薬、左右、点眼回数
の混乱を防ぐため、点眼表を
作成しています
- 点眼薬の区別をするため、
箱やシールや輪ゴムを使って
工夫しています



さまざまな点眼表バージョン



触るとわかるようになっていきます

実践している看護

②内服管理

- 見えにくい患者さんには、薬が分かりやすいように**黒い椀**を使用します
- 薬を黒い椀に出して、飲み残しが無いことを確認するよう指導します



③椅子への移乗の介助

- 患者さんの手を導いて椅子の背もたれと座面に手で触れてもらい、椅子の形・高さを自分で確認してもらいます



退院に向けての支援

- 入院時に退院してからどれだけの援助が必要か考えます



- 退院後の支援について話し合います



- 医師・ソーシャルワーカー(病棟専属) ケアマネージャーなど多職種との話し合いの場を作ります



退院までに調整

ロービジョンケア

- ・病気やけがなどで十分な視力が回復せず、視野が狭くなっても、患者さんが自立してより良い生活を送るための支援をいたします

(例)

- ・身体障害者手帳の申請
- ・生活訓練施設などの情報提供
- ・拡大鏡等のロービジョングッズの紹介



ライトハウスとの連携

ライトハウスとは

視覚障害のある人に対する総合福祉施設
目の不自由な人を対象に、
生活相談・医師への相談・日常生活補助具の情報提供など
様々なサポートをします



当科は、ライトハウスと密に連携し、
退院後も安心して生活が
できるようサポートしています

視覚不良患者さんを想定して、 毎年新人に誘導の練習を行っています



- ・患者さん側の方は様々なゴーグルを着用
(視野が狭いもの、視界が曇ったものなど)



患者の気持ち、自覚症状の理解

- ・看護師側は患者を誘導する



「そこです」「あちらです」などの
曖昧な表現はせずに具体的に伝え、歩行のペースを合わせる

糖尿病内分泌栄養内科の看護

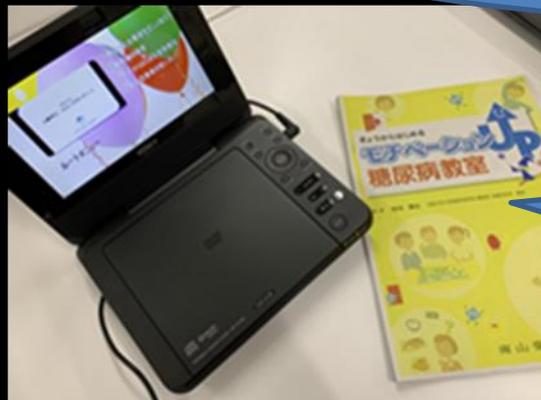
糖尿病での教育入院や術前血糖コントロール目的、
内分泌疾患があり検査入院してくる患者さんの看護を行います



インスリンパンフレット
インスリン手技指導の際に
使います！



インスリンデモ機
デモ機にインスリン注射の
針を刺す練習をします！



テキスト資料
DVDとテキストを見ながら糖尿病に
ついて知識を深めていきます！



糖尿病内分泌栄養内科の看護の特徴

【個別指導】

一人ひとりの理解度や生活状況に合わせた個別指導を行っています

①テキスト指導

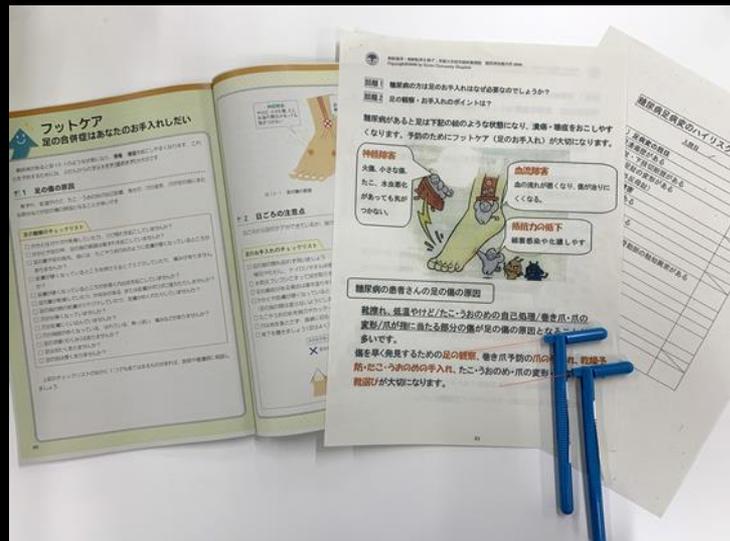
個々にテキストを配布して、個別に食事や運動
糖尿病についての基礎知識の指導を行います

②血糖測定・インスリン治療手技指導

退院後もインスリン治療や血糖測定の継続が
必要となる患者さんに対して、デモ器を用いて
手技獲得に向けて指導を行います

【フットケア】

合併症予防のために、足の感覚テスト・状態観察を行い、足病変のリスクを評価し、患者さんに合わせたフットケア指導を行っています



【多職種連携】

週に1回、病棟の医師・看護師・栄養士・薬剤師で合同カンファレンスを行い、他職種で意見を交換しています
患者さん一人ひとりの意志や生活スタイルを尊重しながら、退院後も療養継続できるように支援しています

また、糖尿病連携手帳に検査データや合併症の現状を継続的に記入し
外来や他院とも連携できるようにしています



南病棟8階ナースの1日

8:00~8:30 情報収集~ラウンドまで
ペアを組むパートナーと担当する患者の
情報収集を行います

情報収集中



申し送り・インシデントカンファレンス
風景



南病棟8階ナースの1日

・8:30~9:00
ペアで本日の看護ケアについて話し合います

・9:00~10:30 ラウンド開始
検温、眼の状態を観察します
点眼指導を行います



南病棟8階ナースの1日

- 10:30~

パートナーで本日のケアの見直し

入院患者さんの元へ

入院患者さんの受け入れ

問診

今までの日常生活状況・
視覚状況・
家族のサポート状況など
あらゆる観点から
聞き取りを行います



南病棟8階ナースの1日

- 11:30~12:30 昼食にむけて

血糖測定・インスリン指導

→糖尿病網膜症の患者さんも多いため
確実な血糖コントロールにむけた指導
も必要です

食事介助(メニュー説明)

食事介助の1例

- テーブルの上の物の位置は、
時計の文字盤を例にとって説明します
例:「3時の位置の手前がカレー」
「9時の位置はサラダです」



南病棟8階ナースの1日

- 13:30~勤務終了まで
患者さんの看護計画の立案、入浴介助など
毎日、入院患者さんの看護について看護師全員で
カンファレンスを行っています



医師と治療について話し合い



カンファレンス風景

若手職員紹介

● Aさん

● 入職2年目、南病棟8階 眼科・糖尿病内分泌栄養内科

● 主な仕事内容

眼の手術を受ける患者さんの術前・術後のサポートを行います。

朝の検温実施、点眼手技指導やインスリン注射・血糖測定の手技指導、入院患者対応、手術前の点眼や処置、保清など患者さんの身の周りのケアを行っています。その他に、硝子体注射や光線力学療法など医師の行う処置の介助も行います。糖尿病患者さんには、テキスト指導やフットケアなどを行っています。



Aさんのある1日

- 07:45 ● メール確認、情報収取
- 09:00 ● 病棟業務(点眼手技指導、検温、配薬など)
- 10:30 ● 入院患者対応
- 13:45 ● カンファレンス
- 15:00 ● 硝子体注射介助
- 16:45 ● 退勤
- 17:30 ● 買い物をしつつ帰宅、自炊
- 20:00 ● 自由時間、明日の仕事の準備
- 23:30 ● 休憩、就寝

仕事をするうえで大切にしていること

南病棟8階は、手術件数が多く、また入退院の回転が早い一人ひとりの患者さんに関われる時間が短いです。

その限られた時間の中で、患者さんが気持ちを表出しやすい環境を整えたり、不安を軽減できるように声掛けをしたりして関わることが看護師の大切な役割であると考えています。

患者さんの気持ちに寄り添い、ニーズに合った看護を提供できるように心がけています。

また、退院後の生活を見据えた上で患者さんにとって必要な支援を検討しながら関わっていくことも大切にしています。

メッセージ

はじめまして！私たちの病棟では、新人からベテランまで分け隔てなく仲が良く、毎日楽しく働いています。眼科というと特殊なイメージがあるかもしれませんが、白内障・緑内障とよく知られる疾患のほかにもかなり多くの疾患があり、日々新たな発見があります。

様々な基礎疾患を持った方も数多く、小児の患者さんも入院するため幅広く学ぶことができます。昨年度から糖尿病内分泌栄養内科も加わり、インスリン指導やテキスト指導なども実施しています。

南8階で一緒に働けることを楽しみにしています。